

日本産ウミウサギガイ科（腹足綱）の分類学的研究—VIII

（フネガタキヌツツミ亜属）

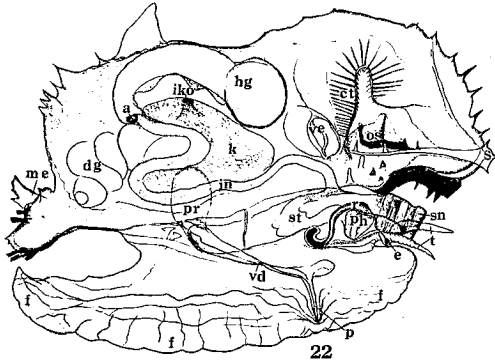
東 正 雄

Systematic Studies on the Recent Japanese Family Ovulidae (Gastropoda) —VIII

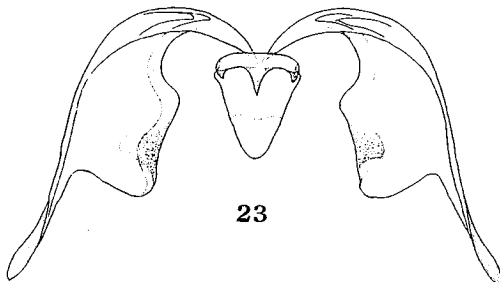
Genus *Phenacovolva* Iredale, 1939 (*Turbovula* Cate, 1973)

Masao AZUMA

（挿図 Text-figs. 22-23）



Text-fig. 22, *Phenacovolva (Turbovula) gracilis* (A. Adams & Reeve, 1848)
No. 14975 (Paratype, No. 3)
(♂) dissected to show contents of the mantle cavity from the right.
ムラクモキヌツツミ（黒田）



Text-fig. 23, *Phenacovolva (Turbovula) fusula dancei* Cate, 1973
No. 15417F. off Minabe (70-80m.)
ダンスキヌツツミ（東）の歯舌

フネガタキヌツツミ亜属の残りを次の如く記述する。

96. *Phenacovolva (Turbovula) fusula dancei*
Cate, 1973 ダンスキヌツツミ（和名新称）
(Text-fig. 23 ; Pl. I, fig. 8)

1973. *Phenacovolva (Turbovula) dancei* Cate,
Véliger, 15, Supplement, 103-104, fig.
233.

模式の殻は中庸大で、うすくやや透明。体層は多少膨大である。両端嘴状部はゆるやかにそりかえり、尖端は鋭どくとがる。背面は不規則に細螺条の刻みめが、両尖端の基部をこえて現われる。中央背面は滑らかで光沢がある。腹面は比較的小さく、鋭卵形で、後方に丸く突きあげる螺状の滑層瘤がある。腹面は平らかで波動のような線条を現わしている。殻口は広い、前方へは更に著しく拡がる。殻軸は弱く平らかで、軸唇窩は内方へくぼんでいる。外唇は厚く、鋭く平らかで、前方では鋭く角ばりを現わし、周縁角がある。背面には明るく褐色がかかる紅紫色の3帯がある。両端の基部と嘴状部は輝く橙色、外唇の中間は灰色がかった白色である。

歯舌：中歯はやや偏圧した倒三角形、中歯尖は短い、その両側に1対の短い側歯尖がある。側歯はややアロエ葉形、基部はやや長く、外側後方へ突き出る。前縁端近くに2つの微歯尖がある。尖端は鋭く大きな歯尖となり内方へゆるやかに曲る。（紀伊南部堺漁場沖、水深約60mから採取した資料による。）

模式標本：殻長17.9mm、殻径5.0mm。イギリスの Wales の National Museum 保管。

補模式標本 (Pl. I, fig. 8)：殻長21.6mm、殻径6.5mm、殻高4.7mm。

模式産地：マレーシアのシンガポール（北緯1°14'；東経103°55'の海域底）

分布：印度の南東部，マレーシアからオーストラリアの北西部（補模式は Darwin の北西150マイルから採集されたもの），南アフリカの南ナタールの Manaba 海岸，日本（紀伊南部堺漁場沖2～3 km，水深70～80m）。

寄主：ウミカラマツ *Antipathes japonica* Brook [Antipathidae] 上に棲む。オーストラリアの報告ではこの貝は *Pinctada maxima* (Jameson) シロチョウガイの上に棲んでいる。

考察：紀伊産の多くの標本は原記載に完全に一致しない。腹面の滑層が顕著に現われて、波動する線条が殆ど不明瞭である。

この種はフネガタキヌツツミ *Phenacovolva fusula* Cate & Azuma, 1973 によく似るが著しく大形であること。歯舌形態も著しく酷似するので *fusula* の巨大型とも思われるので亜種とする。

97. *Phenacovolva (Turbovula) fusula*

Cate & Azuma, 1973

フネガタキヌツツミ (和名新称)
(Text-fig. 8 ; Pl. I, fig. 7)

1973 *Phenacovolva (Turbovula) fusula* Cate & Azuma, Veliger, 15, Supplement, 103, fig. 232

模式 (Pl. I, fig. 7) の殻は小さく、狭い卵形、半透明、両端はやや狭く、弱く突きでる。背面は光沢があって、丸くふくらみ、両端の嘴状部から細螺条の刻みめがあるが、中央よりは不明瞭となる。腹面は狭き卵形～紡錘形で、弱い螺条の刻みめが現れている。そして前方へは平らかで真直である。後方には螺旋状に滑層瘤が突き出ている。殻口は後方へ狭く、前方へかなり広がる。殻軸は曲り、中凸で、弱い線条で包まれ、やや滑らかで、内方は僅かに縦の畝がある。前方は弱い軸唇窩となる。外唇縁は厚く、滑らかで周縁角がある。唇は後方より前方へ平らかに曲り、急に鋭く斜の角ばりとなって前端にいたる。殻の地色は灰色がかった白色で、幅の広いバラ～紅紫色の2帯があるので、中央帯はより明るい地色となる。それと両端の嘴状部との間に灰色がかった白色の小さな帯状模様がある。両端の嘴状部はピンクがかった灰褐色、両終端は鮮明な黄色。両水管溝は蒼白なピンク色。外唇縁は鮮明な白色がかった灰色である。

歯舌：中歯は舌状形、中歯尖はやや大きく鋭く突きでる。両側に1対の微小な側歯尖がある。側歯はやや囊状で、前縁端近く外側に2微歯尖がある。前縁端は大きな歯尖となり内方へ湾曲する。内側基部は囊状のようである。基部の外側後方は著しく細長く突きでている。

考察：上述の歯舌の形態は此亜属の範ちゅうに合致し

ない。むしろ *Calcarovola* 亜属の範ちゅうに似るが殻の形態を考察してこの属に入れておく。

模式標本：殻長13.1mm，殻径4.6mm，殻高3.5mm，著者保管 (No. 14977)。

模式産地：紀伊の南部堺漁場沖2～3 km，水深(40～50m)。

寄主：ウミカラマツ *Antipathes japonica* Brook [Antipathidae] 上にすむ。

付記：軟体は不詳である。

98. *Phenacovolva (Turbovula) hirasei*

(Pilsbry, 1913) サチコツグチガイ (黒田)
(Text-fig. 20 ; Pl. I, fig. 9)

1913 *Ovula (Neosimnia) hirasei* Pilsbry, Nautilus 26 : 114 ; pl. 7, fig. 4

1941 *Pellasiimnia hirasei* ; Schilder, Arch. Molluskenk. 73(2/3) : 110

1956 *Neosimnia hirasei* ; Allan, Cowries World Seas : 128

1963 *Volva (Neosimnia) hirasei* (Pilsbry), 鹿間・堀越, 世界の貝, 45 ; pl. 32, fig. 21

1973 *Phenacovolva (Turbovula) hirasei* (Pilsbry), Veliger, 15, Supplement, 104, figs. 234, 234a

模式の殻は紡錘形、殻長は殻径の2.8倍、うすく青味ある白色で、両端4～5 mmは蒼白な黄土色である。有光沢、レンズで見ると著しく明らかに多くの縦の線条と凡そ6個の斜の螺条が両端から現われる、残りの殻表には顕微鏡で見ると螺条がある。両端の長さは殆ど同じ位で突きでる。外唇は厚く外側と内縁があるが、両端ではうすくなって弱い角ばりとなる。殻軸は真直で単純となる。後端近くに低い螺状のうねりを斜にかこんで滑層瘤となる。

歯舌：歯舌リボン中央付近の形態：中歯はやや偏圧した台形～卵形、中歯尖は大きく伸びる。両側に3～4対の微小な側歯尖がある。最内側は小形である。側歯はややアロエ葉形、その基部の外側はやや長く、後方へ突き出る。前縁端近くに5～6個の微鋸歯状尖がある。その前端の1～2個は、やや大であるが、残りは著しく小形である。前縁端は大きな歯尖となり、ゆるやかに内方へ曲る。(土佐沖150～200m内外から1960年採集した3個体による。)

模式標本：殻長28.0mm，殻径10mm。

補模式標本 (Pl. I, fig. 9) : 殻長23.9mm，殻径9.0mm，殻高6.9mm。

模式産地：土佐湾沖。

分布：日本（紀伊名田沖以南，土佐湾沖，水深（200 m内外），フィリピンの南ミンダナオの Dapitan 沖，水深（311m内外），Zamboanga 市南方。

付記：寄主，軟体は不詳である。

99. *Phenacovolva (Turbovula) kashiwajimensis*

Cate & Azuma, 1973

カシワジマキヌツツミ（和名新称）

(Pl. I, fig. 10)

1973 *Phenacovolva (Turbovula) kashiwajimensis* Cate & Azuma, Veliger, 15, Supplement, 104-105, fig. 235.

模式 (Pl. I, fig. 10) の殻はやや大きく幅広い紡錘形，中央よりは最もふくれ，横切る角ばりがある。両端は平らかに細くなり，鋭く突きでて，斜に截断され，尖端部はやや方形になる。背面はやや光沢があつて，やや幅広い間隔をたもつ多くの細い螺条がある。腹面は滑らかで光沢強く，多くの細螺条がある。後水管溝内唇に弱い小さな鋸齒状の滑層瘤がある。軸唇高域は滑らかで丸い。殻口はかなり広く，ゆるやかに曲る。外唇は滑らかで光沢があり，丸く縁取られ，前方へ圧縮する。殻色は乳白色で，両尖端は赤褐色～灰褐色で終端のもとを彩どる。外唇の周縁縫合はレモン黄色の線でかこむ。

模式標本：殻長31.7mm，殻径9.7mm，殻高7.8mm，著者保管 (No. 15420)。

模式産地：紀伊，富田沖 2 km内外，水深 (73~91 m)。

分布：紀伊，土佐（柏島沖）。

付記：この種はサチコツグチガイ *Phenacovolva hi-raisei* (Pilsbry, 1913) に酷似するが，滑層瘤が不顕著であること，背面の螺条は全域にあること，殻はより厚くやや圧縮していることなどによって区別できる。歯舌，寄主，軟体など不詳である。